

# 着付け職種技能検定 1 級学科試験

令和8年6月9日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

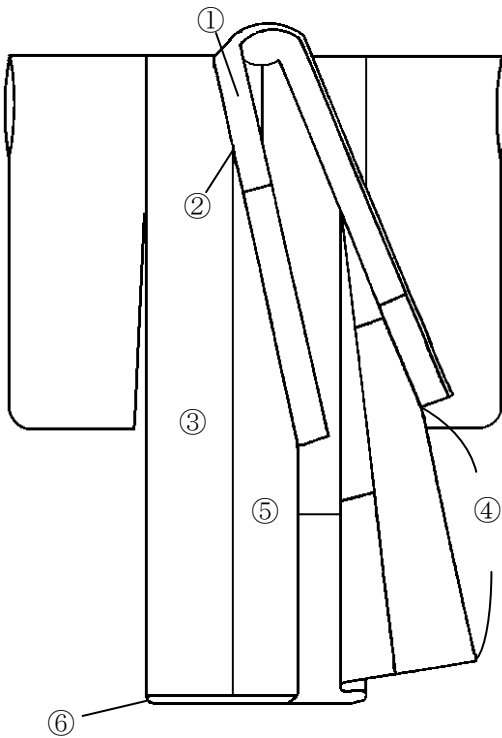
問題 1. 服飾の歴史について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 付下げ      2. 右衽令      3. 名古屋帯      4. 友禅染

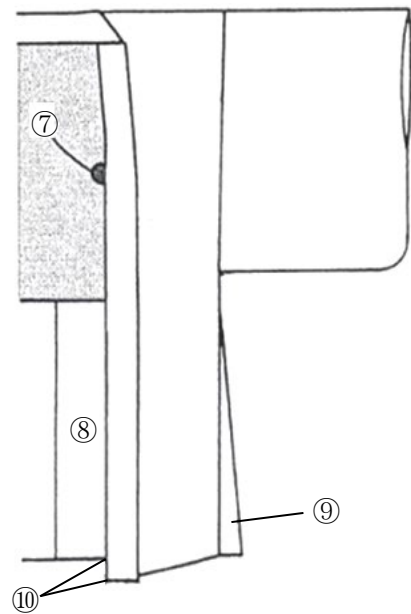
ア. 平安時代	イ. 奈良時代	ウ. 鎌倉時代	エ. 大正時代
オ. 昭和時代	カ. 江戸時代	キ. 弥生時代	

問題 2. 次の着物の各部位の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

〔女物衿 長着〕



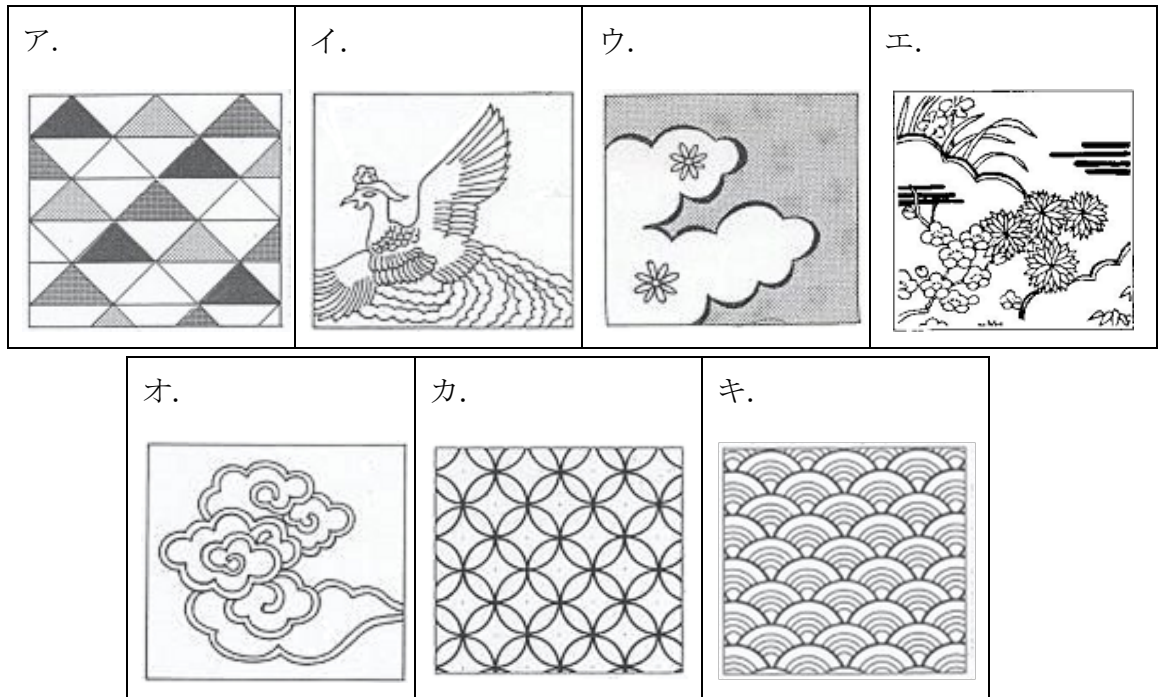
〔男物衿 羽織〕



ア. くりこし	イ. 衽下がり	ウ. 裾折り返し	エ. 袖付	オ. 内揚げ	カ. 衿下 (襷下)
キ. 衽	ク. 身八つ口	ケ. 裾ふき	コ. 身丈	サ. 前身ごろ	シ. 共衿 (掛衿)
ス. 衿	セ. 着丈	ソ. 袖丈	タ. 袖口	チ. 背縫い	ツ. 人形
テ. まち	ト. 振り	ナ. 剣先	ニ. 乳	ヌ. 前下り	ネ. 襷先

問題3. 次の説明に該当する文様について、下記の中から適切なものを選び、記号を記入しなさい。

1. 幾何学の図形に似た文様。
2. 平安時代から宮廷を中心に、公家の装束や調度品に用いられた織物に施された文様。
3. めでたい、縁起の良い文様。平安時代に中国から幸福や繁栄のしるしとして渡来し、これに日本独自のものが加わった。



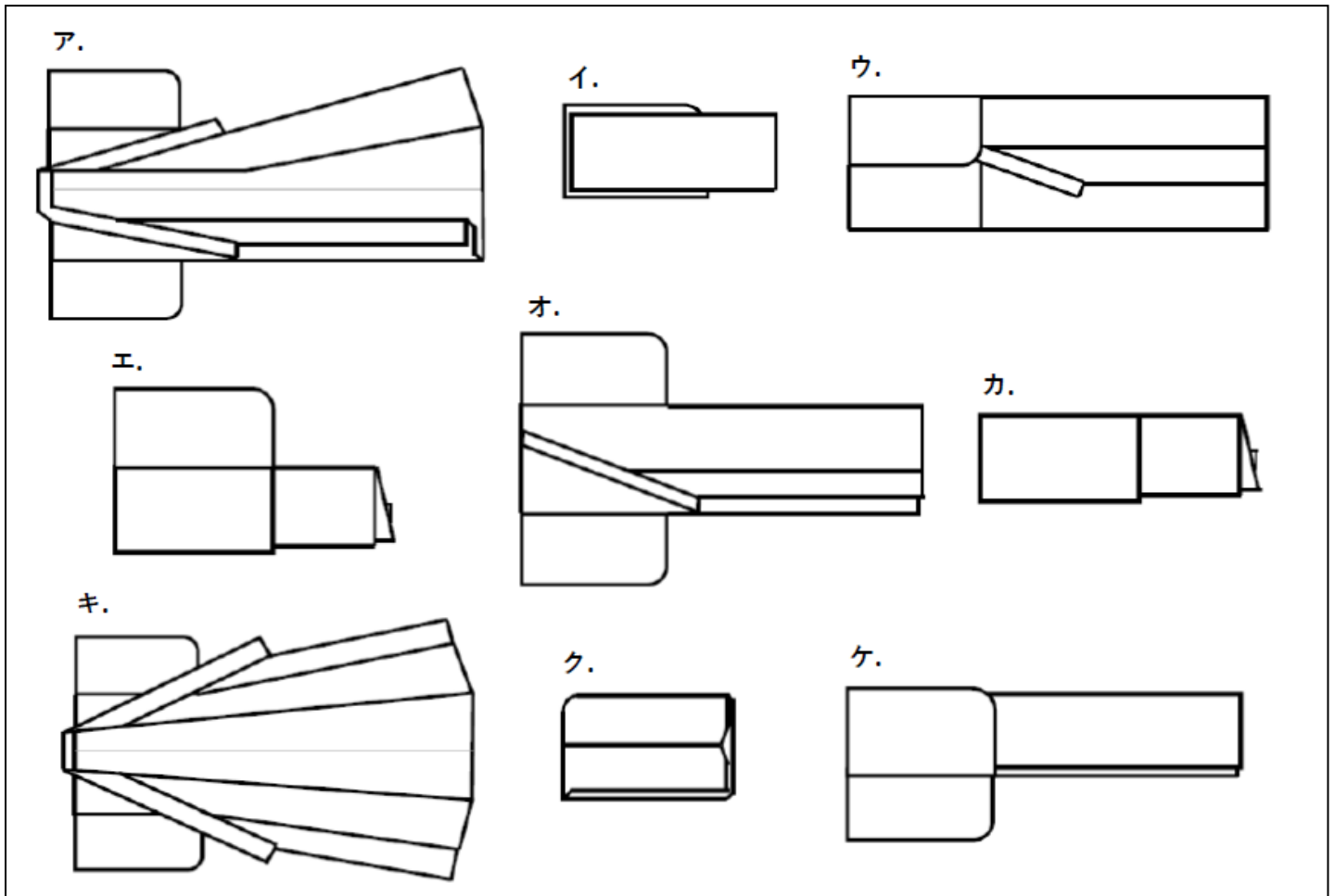
問題4. 男女の着物の主な違いについて、( ) にあてはまる最も適当なものを下記の中から1つつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 女物の着物 —— 衿は ( ① ) 又はばち衿である。  
 着物の丈は ( ② ) に仕立ててあり、着物丈が長い。  
 脇には ( ③ ) が開いていて、袖には ( ④ ) がある。
2. 男物の着物 —— 衿は ( ① ) ではない。  
 ( ⑤ ) に仕立ててあるので、着物丈が定まっている。  
 着物の脇には ( ③ ) はなく、袖には ( ⑥ ) がある。

ア. 着丈	イ. 棒衿	ウ. ふり	エ. 身幅	オ. 身八つ口
カ. まち	キ. 身丈	ク. 広衿	ケ. 共衿	コ. 人形

問題5. 長着（本だたみ）のたたみ方について、下記の中から必要なものを選び、正しい順序になるように並べて、その記号を記入しなさい。

( 1 ) → ( 2 ) → ( 3 ) → ( 4 ) → ( 5 )



問題6. 三原組織のそれぞれの代表生地を説明しているものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 朱子織（縹子織）      2. 綾織（斜文織）      3. 平織

- ア. その丈夫さから現在でも多く用いられており、織物のなかではもっとも古い。たて糸とよこ糸を一本おきに交互に織り合わせた組織。
- イ. 連続的に浮沈した組織点が斜めの線をあらわしており、三本以上のたて糸とよこ糸から作られている。
- ウ. 織物の表面にたて糸、あるいはよこ糸を浮かせた織物。たて糸とよこ糸の組織点を少なくし、しかも連続しないよう分散させている。
- エ. 表と裏で同じ組織を交互に配置し、色を反転させる二重織りの組織。市松模様などが特徴。

問題7. 次の織物について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 縮緬                      2. 綴                      3. 塩瀬

- ア. ギザギザにした爪と櫛で、模様の部分に織り込んだよこ糸をおさえていくという細かい織り方。色の境目には縦方向にすきまができる。
- イ. 玉繭、真綿、くず繭などを使用して織った平織の絹織物。
- ウ. 織り目が細かく、滑らかで艶があり、礼服、羽織裏などに用いられる平織の絹織物。
- エ. からみ織と平織を交ぜて織った、薄くて織り目が透けている絹織物。
- オ. たて糸に撚りのない生糸、よこ糸に撚りの強い生糸を用いて平織にした後、特殊な液体に入れ、煮て精練して仕上げた絹織物。
- カ. たて糸を細くして、よこ糸を太くして織るので、布面によこ畝が現れるのが特徴。

問題8. 次の染物について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 紅型                      2. 小紋                      3. 加賀友禅

- ア. 布地のところどころをつまみ糸でくくるか、しわを寄せて縮め、これを染液に入れて染め、その後糸を解きもしくはしわを伸ばし、種々の模様をあらわし出した染め物。
- イ. 上下の方向に関係なく、布地一面に模様を染め出したもの。
- ウ. 人物・花鳥その他などの多彩な模様染めで、室町時代末期にインド・ペルシアから渡来した。
- エ. 自然の草花や鳥などを写実的に描く。小ぶりの花、虫くい葉などが臙脂、藍、黄土、緑、紫の五色により構成されている。
- オ. 写生のような画風、繊細華麗な装飾画が基本。御所解文様、有職文様など柄行きは遠目にも映える大柄が多く、刺繍、金箔が加わり豪華なもの。
- カ. 琉球で始まった型紙による染物。

問題 9. 次の着物の着用時季の説明について、正しいものには○、誤っているものには×を記入しなさい。

1. 袷の色無地は9月から5月に着用する。
2. 薄物の小紋は7月と8月に着用する。
3. 単の付下げは6月と10月に着用する。

問題 10. 着物の用途、格等の合わせ方に関する記述について、誤っているものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 絵羽模様の中振袖と袋帯を合わせると礼装になる。
- イ. 袖丈が長い小紋柄の振袖は、礼装にならない。
- ウ. 袖丈が長い織りの中振袖は、礼装になる。
- エ. 江戸小紋の中の一つである鮫小紋の着物は、色無地一つ紋の着物と同格でない。
- オ. 黒留袖と五つ紋付の色留袖は同格ではない。

問題 11. 紋の種類について、( ) にあてはまる最も適当なものを下記の中から1つずつ選び、その記号を記入しなさい。

現在用いられている紋の数は、一つ紋、( 1 )、( 2 ) で、染紋の種類は、( 3 )、( 4 ) などがある。正式な紋は、( 3 ) の ( 2 ) である。  
白く染め抜かれていて、後でそこに紋を書き入れるものを ( 5 ) という。  
染紋に対して、紋を刺繍したものを ( 6 ) という。

- |         |          |             |        |
|---------|----------|-------------|--------|
| ア. のぞき紋 | イ. 縫紋    | ウ. 日向紋 (陽紋) | エ. 陰紋  |
| オ. 五つ紋  | カ. はりつけ紋 | キ. 石持       | ク. 三つ紋 |

問題 12. 次の帯について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 丸帯

2. 袋帯

3. 名古屋帯

- ア. 太鼓になる部分は表地をそのまま返し、胴を巻く部分は半幅に仕立てた帯。  
イ. 裏や芯を入れず、織物そのものだけの一枚織の総称。博多、綴、紬、絹、紗、羅などの織りの帯。  
ウ. 男性用の帯の一種。  
エ. 柄付けには全通、八通、六通、三通、および太鼓柄などがある。  
オ. 広幅（70cm）に織った一枚の帯地を、二つ折りにして片方のみを縫い合わせて仕立てた帯で、両面に同じ模様が端から端まである。

問題 13. 次の文章について、（ ）に当てはまる適当なものを下記の中から一つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. 袷の礼装の半衿は（ ）である。  
2. 夏の長襦袢は（ ）を用いる。  
3. （ ）の草履は礼装にはむかない。

- |            |        |       |
|------------|--------|-------|
| ア. 絹、麻、紗   | イ. 佐賀錦 | ウ. 縮緬 |
| エ. 爬虫類、コルク | オ. 綸子  | カ. 塩瀬 |

問題 14. 次の着物と小物の合わせ方のうち、適当なものを1つ選びその記号を記入しなさい。

- |            |       |               |
|------------|-------|---------------|
| ア. 銀の布製の草履 | _____ | 喪服            |
| イ. 白の帯揚げ   | _____ | 色留袖 (染め抜き五つ紋) |
| ウ. 色物の長襦袢  | _____ | 黒留袖           |
| エ. 爬虫類の草履  | _____ | 中振袖           |

問題 15. 着物の着付けをするときの心得として、正しいものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 着付けを始める前には丁寧に一礼をする。
- イ. 身なりは特に注意する必要はなく、素足でもよく、時計やアクセサリー類を外す必要は無い。
- ウ. 着付けをする時のクリップや小物は、着物用がなければ代用品（洗濯ばさみ、生ゴム等）を使用しても良い。
- エ. 着付けをする際には、着物や帯や小物を踏んだり跨いだりしないよう大切に扱う。
- オ. ひも類は、首や肩にかけて作業する。

問題 16. 次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 美容師免許を取得すれば、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。
- イ. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなければ業として行うことができない。
- ウ. 美容師免許がなければ、有料で着物を着付けることはできない。
- エ. 花嫁の結髪・化粧を業として行えるのは、美容師のみである。

# 全日本着付け技能センター

## 1級学科試験【模範解答】

令和8年6月9日(火)

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

### 問題1 (各2点)

1	オ	2	イ	3	エ	4	カ
---	---	---	---	---	---	---	---

### 問題2 (各1点)

1	シ	2	ナ	3	サ	4	カ	5	キ	6	ケ	7	ニ	8	ウ	9	テ	10	ヌ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---

### 問題3 (各1点)

1	ア	キ	2	ウ	カ	3	イ	オ
---	---	---	---	---	---	---	---	---

※1、2、3順不同

### 問題4 (各2点)

1	ク	2	キ	3	オ	4	ウ	5	ア	6	コ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

### 問題5 (各2点)

1	キ	2	ア	3	オ	4	ケ	5	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

### 問題6 (各2点)

1	ウ	2	イ	3	ア
---	---	---	---	---	---

### 問題7 (各2点)

1	オ	2	ア	3	カ
---	---	---	---	---	---

### 問題8 (各2点)

1	カ	2	イ	3	エ
---	---	---	---	---	---

### 問題9 (各2点)

1	×	2	○	3	×
---	---	---	---	---	---

### 問題10 (各2点)

ウ	オ
---	---

※順不同

### 問題11 (各1点)

1	ク	2	オ	3	ウ	4	エ	5	キ	6	イ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

### 問題12 (各2点)

1	オ	2	エ	3	ア
---	---	---	---	---	---

### 問題13 (2点)

1	カ	2	ア	3	エ
---	---	---	---	---	---

### 問題14 (2点)

イ
---

### 問題15 (各2点)

ア	エ
---	---

※順不同

### 問題16 (2点)

ウ
---